

2017年キャンパスアジアプログラム

A Semester ソウル大学留学報告書

文学部社会学専修課程3年 山田恭平

1. はじめに

2017年9月より、半年（のち1年に延長）の期間で韓国のソウル大学自由専攻学部にて交換留学を行った。そもそもの留学に至る経緯はEALAIの「ベストウィンタープログラム」（2017年2月）への参加がきっかけであり、このとき出会った多くのソウル大の友人に誘われる形で韓国留学を決めた。留学中はもちろん、留学前の準備段階から彼らの支えに大変助けられ、彼らのおかげで充実した留学生活を送ることができた。

特に、「キャンパスアジアプログラム」が今年度から新たに始まったプログラムであり、前例のないことが連続する中で、手続きや学生生活など現場における必要不可欠な情報を快く提供してくれたP・L君の存在が大きかったことは言及しておく必要がある。寄宿舎ごとにことなる複雑な手続きの対応をはじめ、学部合宿への参加あっせんなど、彼の助けで4人の東大からの留学生は無事に留学を行うことができた。彼も現在（2018年S Semester）「キャンパスアジアプログラム」を利用し東大に留学中である。日韓の学生が互いに助け合い、良好な関係を継続させている現在の状況が、このプログラムの趣旨を満たしているものであると誇らしく思う。

初めに言及したように、前例のないこのプログラムにとって、一期生である我々の経験がのちの学生の参考になれば幸いである。留学という体験は、それに参加する個人に大きな影響を与える。しばしばその影響の大きさをゆえ、自らの体験を絶対化してしまいがちだ。「韓国はこうだ」「韓国ではこれをしたほうがよい」。こうした言説はすべて疑ってかかる必要がある。この点に留意しながら、ソウル大学で生活するうえで最低限必要な情報を提供したいと思う。

以下はソウル大での生活の各分野ごとに、その概要を紹介する。参考のため、個人の主観的なコメントも併記する（概要自体が個人の経験に依存した主観的なものである面は言わずもがなである）。

2. 各分野の概要

語学

【概要】

韓国では大卒者の英語水準は高く、英語を用いての生活も可能である。しかし大学の外に出ると英語が併記されていない場合や英語が話せない人も多く、韓国語で基本的な日常会話ができることが望ましい。大学の中で英語で生活する場合は、ソウル大に留学に来ている各国出身の学生（西洋人をはじめ韓国語が分からない学生も多い）と、韓国語で生活する場合には見た目も文化も近い韓国人と交流を持つ傾向がある。

【韓国語学習】

韓国語の語彙の70パーセントは「漢字語」であり、日本語と語順が同じであるため、日本語母語話者は相当早い速度で語学力の向上が見込める。

大学で韓国語の講義を受ける方法は、主に2種類ある。1つは「語学堂」と呼ばれる大学付属の語学教育期間で授業を取ることが可能である。大学の正規の授業ではないので、学費などが別途発生する

が、補助が出る場合もあり、早い段階でソウル大の担当者に希望を伝えると良い。レベルが1級～6級（最高級）に分かれており、これはほぼ韓国語能力試験(TOPIK)の級に対応している。授業時間は平日毎日9時から13時で、時折週末に「文化体験」と称し、遠足なども行う。あるいは、外国人向けに開講される、大学の正規の授業として履修することもできる。授業名としては「中級韓国語」「高級韓国語」「韓国語語彙と表現」など。授業回数は一コマ75分、週に2回ほどでほかの授業と差異はない。語学堂では受講者のレベルに合った文法などを細かく学習するのに対して、正規の授業は受講者の韓国語能力も多様であるため、作文練習やエッセイの読解などが中心となる。

【英語、その他の学習】

ソウル大学の英語の授業はその多くに履修定員があり、希望すれば必ず履修できるとは限らない。ソウル大生の英語能力は概して高く、交換留学などを通じた学生の海外経験も東大に比べて多いようである。特に「キャンパスアジア」留学先の自由専攻学部には推薦入試制度があり、高校までの海外経験を持つ学生が一定数いる。

中国語などのその他の言語の授業も、教養科目として開講されている。当然使用言語は韓国語であるが、初級レベルの語学学習だとそこで使われる韓国語語彙も限定的で、専門科目の授業よりも比較的履修しやすいといえる。

アクセス、施設

【概要】

ソウル大学のキャンパスは有名な登山地「冠岳山」に隣接しており、山がちである。もともとゴルフ場であった場所にキャンパスを作ったということもあり、広大で坂道が多い。キャンパス内の移動は徒歩が中心だが、循環バスもある。基本的にはエリアごとに学部が分かれており、「人文大学」（人文学部）、「経営大学」（経営学部）などの名称で呼ばれる。

最寄駅は「ソウル大入口」駅で、そこからバスに乗り10分～15分ほどでキャンパスに到着する。市バスと無料のシャトルバスがあるが、ソウル大のどこに行きたいかに応じて使い分ける必要がある。学生寮はキャンパスに隣接しており、徒歩で通学可能。寮からの最寄り駅は「ソウル大入口駅」の隣の「ナクソンデ」駅であり、バスや徒歩で移動できる。

朝の9時ごろや午後6時ごろは、大変な通学ラッシュとなり、バスを待つ列が生じるほか、渋滞によりバス乗車時間が通常の倍になることもある。

ソウル大キャンパス内には図書館やジム、カフェをはじめ、銀行や郵便局、薬局などの生活に必要な施設、食堂が数か所、ロッテリアなどの外部資本の店舗もある。

【図書館】

図書館へ入場する際には学生証が必要である。この学生証は、専用アプリを使ってバーコードとして表示させることもできる。図書館内には書架、パソコン室、自習スペース、メディアブース、グループ学習室などがある。注意しなければならないのは自習スペースの座席は予約制であり、自習スペースの入り口にある端末を使って予約する必要がある。この作業は専用のアプリからも行うことができる。

【食堂】

キャンパス内に数か所あり、それぞれ運営業者やメニューが異なる。利用方法は、列に並び皿を取る手前においてある端末でカード決済。このとき、学生登録処理を行ったカードを用いると学割（1000ウォン）が受けられる。現金での食券購入も可能。価格は3000ウォン～5000ウォン程度。一つの食

堂ごとに基本的にメニューが二種類あり、どちらかを選択して皿（メイン、おかずなど）を受け取る。韓国料理らし石鍋のメニューや、辛いメニューも多い。その日のメニューや運営時間は食堂のアプリで確認することができる。

【学生会館】

ソウル大からの奨学金受け取り手続きを行う新韓銀行や、売店、食堂、書店、薬局、携帯電話ショップ、理髪所などがある建物で、生活に必要な施設がそろっている。

金銭

【概要】

韓国の物価は日本とそう変わらない。レートによって変動するが、おおよそ1000ウォン=100円であり、価格計算は容易。会計する際はほぼカードのみを用いるカード社会であり、大学で発行した新韓銀行のチェックカードでバスや地下鉄も乗れる。ただし、屋台や市場、ゲームセンターなどでは現金のみ使用することができる。学食や交通費、酒代は日本と比べて相当に安い、ほかのものはそう変わらない。

【奨学金】

大学の新韓銀行で開設した口座に振り込まれる。毎月10日ごろの振り込みであったが、初月などは振り込み日が異なる可能性が高く注意が必要。

授業

【概要】

授業の履修は東大と異なり、開講前の期限までにウェブ上で登録を済ませる。登録開始時間と同時に先着順での履修登録であるため、コンサートチケットを取る要領でパソコンの前に待機し、希望の授業順に素早く画面をクリックする必要がある。一般的に英語の講義は人気が高くすぐに定員になそう。授業のほとんどに出席チェックがあり、出席率はほぼ100パーセントである。文系科目にも中間試験、中間レポートが多く、課題や勉強量は東大よりも多くなる傾向がある。就活や奨学金のために成績を重視する学生が多く、授業参加度が評価に含まれる場合は授業中の学生の発言は概して積極的である。授業を友人同士で受けることは少ないように見受けられる。

【履修授業の紹介】

一学期目に履修した授業と、二学期目の現在履修中の授業について簡単に紹介する。

【上級韓国語】

外国人向けの韓国語授業の最高級で、このほか帰国子女の韓国人学生向けの同名の授業がある。授

業では様々なタイプの文章の作文演習や、興味のある社会問題についての発表などが課される。各国出身の交換学生や正規の学生が参加するが、一般的なソウル大の授業と同様、全員で仲良くなるというような雰囲気はない。

【大学国語（書き方の基礎）（履修中）】

一年生の必修授業で、論文の書き方を学ぶ授業。同名の外国人学生向けの授業を履修中である。本来正規の一年生が取る授業であるため、交換学生はいなかった。韓国人向けの授業よりも内容は易しく、論文で使う高度な語彙や漢字の学習などを行っている。学期中に2回ほど遠足に行くことになっており、先生も含めて和気あいあいとした雰囲気である。

【韓国語語彙と表現】

韓国人学生と外国人学生と一緒に履修することができるよう設計されているとのことである。実際、韓国人学生と外国人学生の比率は半々ほどであった。成績評価は韓国人と外国人では異っている。内容としては、韓国語の高度な語彙、接頭辞や接尾辞などの文法知識、ことわざや慣用句などを学ぶ。漢字の知識が欠かせないことから中国人学生が多くいた。小テストやレポートなどそれなりに課題はあるものの、老紳士である先生が温かく見守ってくれる。

【自律研究、主題探求セミナー】

自由専攻学部の必修授業で、一学期目はキャンパスアジア参加の日韓学生の必修科目とされた（今後は必修はないようである。一学期目は日中韓の参加国のうち、ソウル大がホスト校であったため必修が課された）。自律研究は関心分野ごとに3人～5人の班に分かれ、英語もしくは韓国語でレポート作成、発表を行う授業であり、講義などはない。一学期間を通したグループワークであり、班の学生と仲良くなることができる。我々の班のテーマは「韓国の高齢者嫌悪問題を通じて見る、日韓高齢化社会の比較と考察」であった。主題研究は「デジタルヒューマニティー」を専門とする韓国系カナダ人の教授が、授業ごとに論文を紹介しながらデジタルヒューマニティー（データのある集め方で集めることで新たな発見を生み出す。そしてその成果を視覚化して表す際にもデジタルツールを用いる）の多様な方法論を学ぶというものである。主題研究は東大の「初年次セミナー」に似ており、教授ごとに内容が異なる。個人または班で興味のあるテーマを設定し、「デジタルヒューマニティー」の方法論を持ちいてレポートの作成、発表を行う。我々の班は「QGISを用いたソウル大の視覚効果付きバリアフリーマップ作成と、そこから見える課題」をテーマとした。

【初級中国語2、中級中国語1（履修中）】

教養科目として中国語の授業があり、初級1、2、中級1、2、の順でレベルが分かれている。初級には中国語学習経験者は履修できないなどの制限がある。授業は初級で週に3回（2回＋中国人講師の会話授業）、中級は週に2回である。指定の教科書を毎週一課ずつ進める方式で、毎課単語のテストなどがある。授業で使われる韓国語が文法用語や簡単な中国語の訳・解説であることから、韓国語の聴解はしやすい。韓国語で学習する以上、中国語から韓国語に訳す作業はそれなりに負担であるが、漢字になじみのない韓国人もいることから、日本人はその点有利に進めることができるともいえる。

【韓国現代史（履修中）】

1945年の解放期から2000年代に至るまでの韓国現代史を学ぶ教養科目。基本的な通史を学ぶ講義形式の授業であり、専門用語などはあらかじめ予習をしておくとう聞き取りやすい。2, 3回のレポート、期末試験が評価対象である。

【古典社会学概論（履修中）】

社会学の古典といわれる思想を学ぶ講義であり、社会学科の2年生が履修する授業である。社会学の祖と呼ばれるカント以来の「社会学」史を学ぶのはもちろんのこと、学問分野としての「社会学」が確立される以前の近代思想の系譜についても学ぶ。また、社会のあり方を構想した孔子を代表とする古代中国の思想も学習範囲であり、「東アジアの社会学」「韓国の社会学」も講義テーマとして予定されている。

寄宿舎

【概要】

新館、旧館で設備は異なるが、基本的にはルームメイト（2人部屋、大部屋）と生活する。旧館ではシャワーやトイレが部屋の外にあり、部屋にはベッドと机のみある。寮の中には冷蔵庫や洗濯機が共用で存在し、生活に不便することはないが、人によっては部屋の狭さが気になるかもしれない。基本的に国際寮でなく、一般的な韓国人学生の寮に入ることになるだろうことから、簡単な韓国語が分かると望ましいだろう。ドアの開閉がパスワード式であり、開閉時になるベルの音が少々気になる。寄宿舎エリアには食堂や売店、オープンスペースがあり、学校にも近いことから立地は良い。

3. おわりに

以上、ソウル大学の基本情報について概観した。ソウル大の実際の生活で役に立つマニュアルというよりは、どのような雰囲気であるかを前もって知ることによって、留学に際する不安が軽減されることを意図している。

留学先ではいろいろな経験をしたほうが良いとよく言われるが、何か一つのことだけに集中するのもよいだろう。半年（もしくは一年）という限られた時間の中で何かを得るには、自分なりの取舍選択が大切であると思う。個人的な話であるが、私は今中国語学習に力を入れている。「キャンパスアジア」プログラムは日中韓の三か国のプログラムであり、東大生は留学先を選べるシステムになっているが、一期目は全員がそのどちらかのみを選択した。私も例にもれず、韓国のみで一年を過ごすつもりで申請を行った。一方、今学期から始まったソウル大生の派遣は、日本と中国の両方を巡ることになっている。韓国でともに学んだ彼らが中国に行く2018年Aセメスターに、私もぜひ中国に行きたい。すでに親しい友人である韓国人の彼らとともに中国に行くことで、数多くの東アジアの同世代の知己を得て、未来の可能性を大きく広げたいと思う。